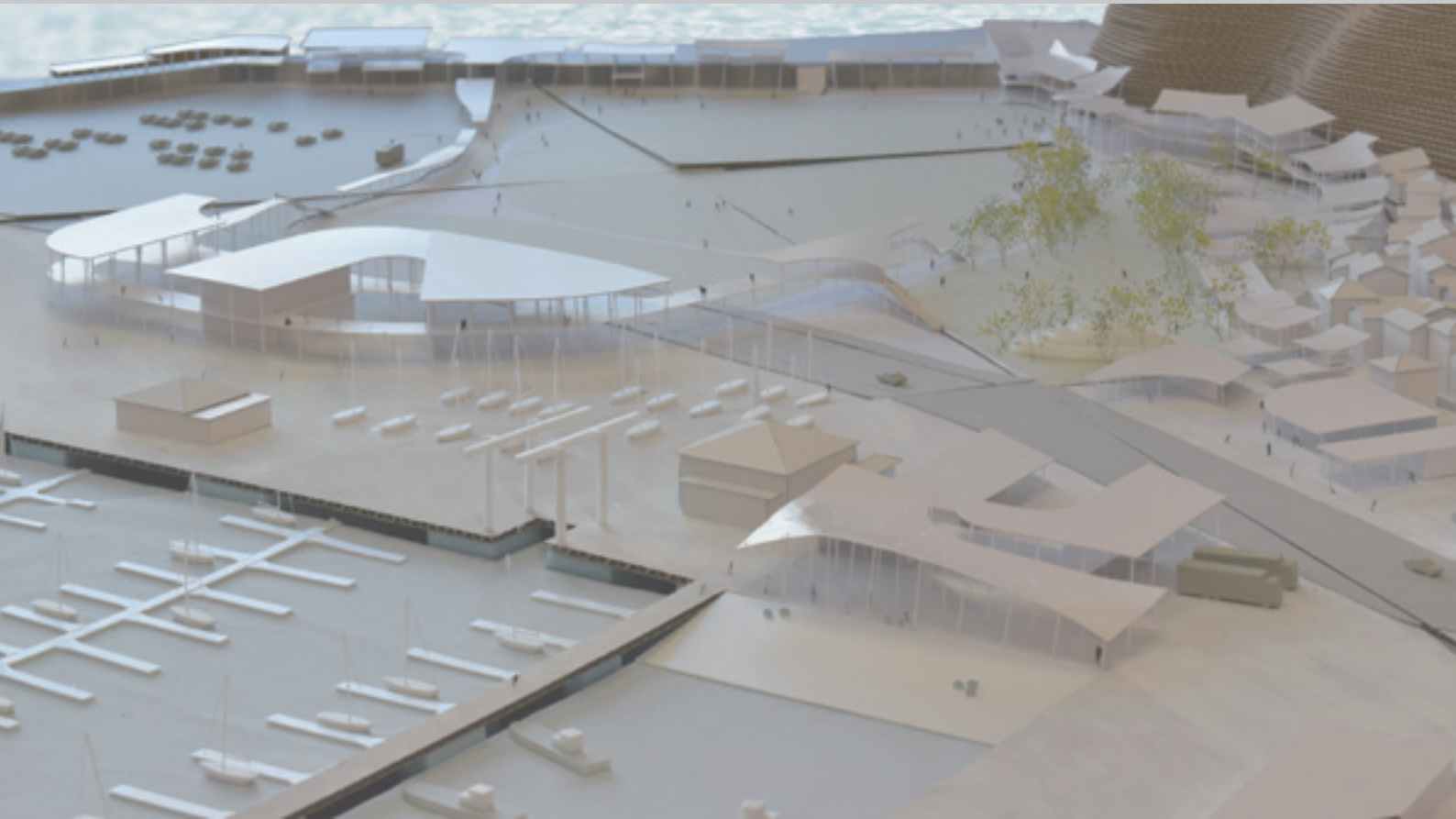


歴史を肯定し、多様性の中で江の島を更新する

地域性を踏まえた環境づくりを目指して

馬場一輝



1. 背景 一断片化・画一化による観光地の環境の均質化一

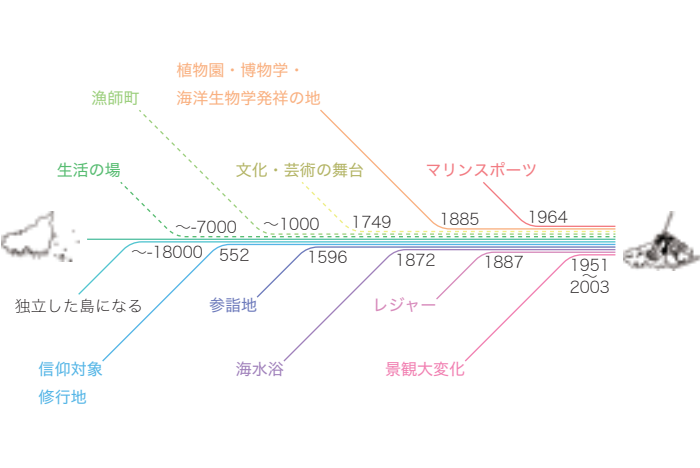
近年の観光地と呼ばれるような地域は、魅力的な風景や文化、産業を有しているにもかかわらず、それに応じた環境の作られ方が画一的になっている傾向がある。地域のアイデンティティとなる場所の周辺には既視感のある飲食店が立ち並び、「ご当地〇〇」、「〇〇名物△△」などといった言葉が観光客を迎える。そのような傾向は観光地同士の均質化を招き、場所の魅力が見失われる原因となる。本研究は、地域性を踏まえた観光地の環境づくりのアプローチを考察するものである。

2. 敷地 一神奈川県藤沢市江の島一



江の島は東西約 1200m、南北約 600m の島であり、対岸の鵠沼から橋を渡るか船に乗ることでアクセスできる。航空写真を見ると分かるように、島の西部は自然の台地が残っているが、島の 3 分の 1 にあたる東部は 1964 年の東京オリンピックのマリンスポーツの会場整備のために埋め立てられ、平坦な土地にほとんど建物が建っていない状態であり、主に駐車場が整備されている。

3. 歴史 一多様性を育み続ける島一



18000 年前に独立した島となって以降、図のように奇異な大地のもとに多くの側面を生み出した。しかし、戦後の大開発により景観は大きく変化し、生活・漁師町としての側面は失われかけている。その一方、開発のおかげでレジャー、マリンスポーツの聖地としての側面が強くなり、島内住民の生活の便も増したことから、開発自体も一概に否定されるべきものではない。

4. 環境の特徴

①様々な文化・産業が見え隠れしていること

②減少する居住人口



島が産んだ多様な側面

影は薄いが存在する様々な側面

前述したように、江の島には信仰対象、海水浴といった側面以外にも、多くの側面を併せ持つ。しかし、現状では信仰や海水浴、観光地化の側面が強く押し出されているあまり、他の側面が薄れてきている。

③自然のままの島 / 埋め立ての人工島



1950 年頃

2005 年頃

1964 年の東京オリンピックでセーリングの会場となった江の島は、会場整備のために東側の 3 分の 2 を埋め立ててヨットハーバーが開発され、島内に自動車乗り入れが可能になるよう、RC 造の橋が架けられた。これにより江の島は自然と人工の両側面を抱えたキメラの性格を帯びる。

④首都圏近郊であること



都心から 1 時間半もあれば着く

車・バス・鉄道などでアクセス可

江の島は東京・鎌倉から近いこと、歴史的にも多くの人々が訪れる場所であった。それは過去から現在、そして未来に至っても同様のことと思われる。都心からのアクセスの良さは江の島に関わる人が多くいるという点で重要と思われる。

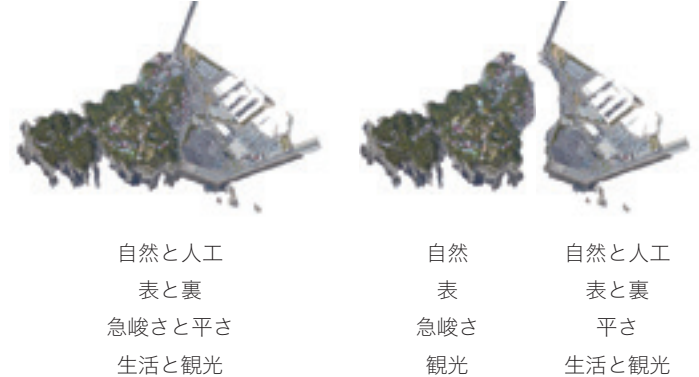
5. 目的 一歴史の積層による環境を肯定し、多様性からなる環境を考える一

以上のように、江の島は奇異な自然地形に対し、大規模に人工的な開発を行って環境が形成されてきた。自然の島としての景観は損なわれることになったが、島内の生活の利便性が増し、マリンスポーツや植物学、レジャーの場所としての側面を付与した点もある。つまり、江の島においては、絶えず変化する景観とそれによって文化や生活、産業などが多様化していったという全体性・包容性に価値があるのではないかと考える。島の東部は 1964 年の埋め立て以降、空白の状態が続いている。だが、生活や漁業、ヨットハーバー、生活に根付いた信仰、岩場への抜け道、自動車交通など、多くの側面が凝縮された場所でもある。通常であれば否定されてしまうような大規模開発をあえて肯定し、島の多くの側面を取り込んだ多様性の中での江の島の環境づくりを提案する。

6. 設計の方向性 一島の東西で異なる視点で環境の独自性を感じる一

①島東部の多様性・二面性から建築を作る

②環境の特徴を利用する



自然と人工

自然

自然と人工

表と裏

表

表と裏

急峻さと平さ

急峻さ

平さ

生活と観光

観光

生活と観光

島の西部は自然豊かで起伏があるため階段が多く、経験は途切れ途切れかつ一つの空間に複数の側面は同居せず、主に観光客のための表の環境である。対して東部は人工的かつ自然もあり、平坦で見渡しが良く、生活の場でもありながら観光客のためでもあるという、表と裏の側面を持った環境である。そこで、島の東部を自然と人工、生活と観光、表と裏といったハイブリッドかつ全体的な視点で感じられるようにする。



既存道のヒエラルキー

平さ

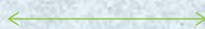
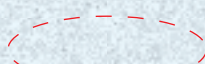


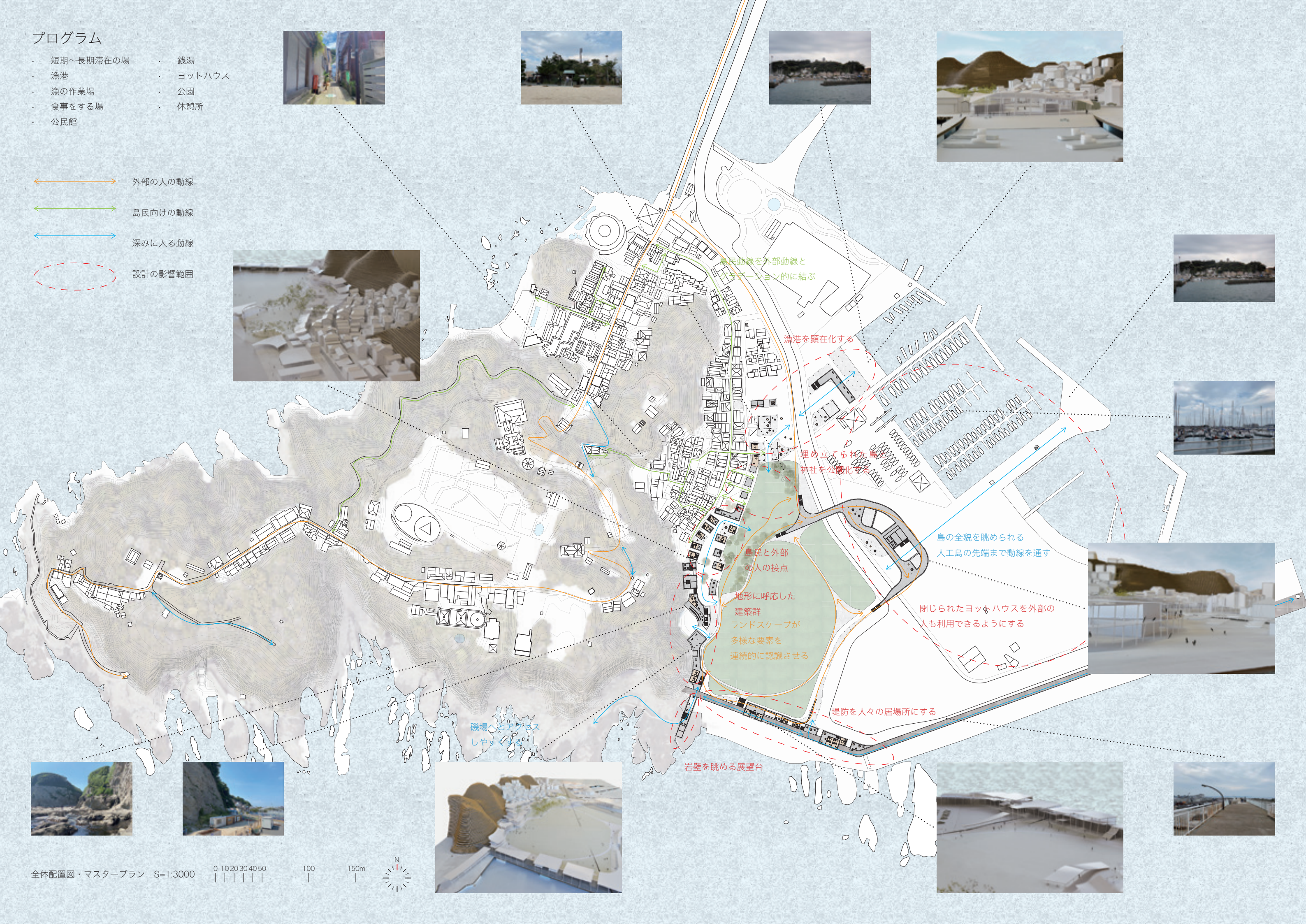
交通

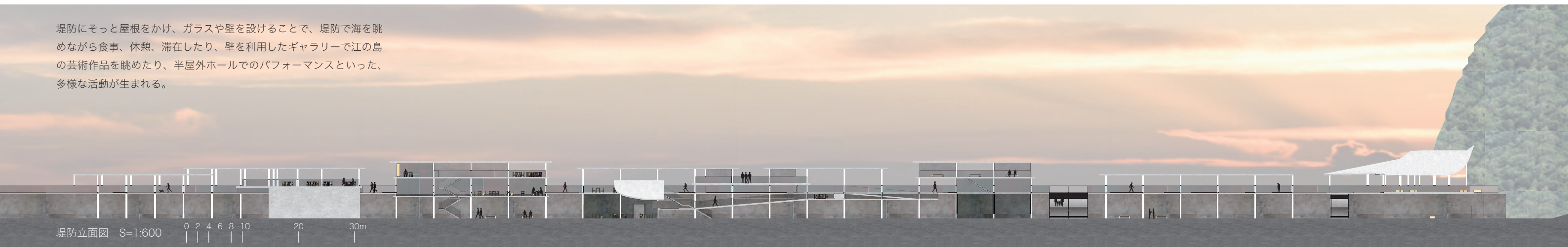
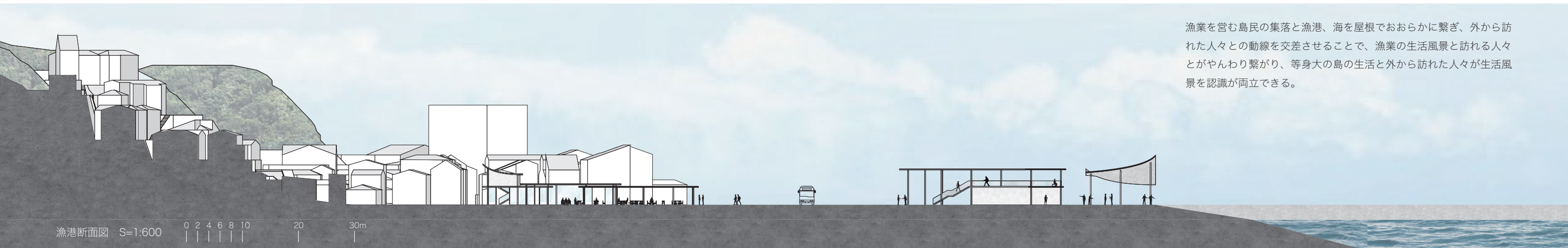
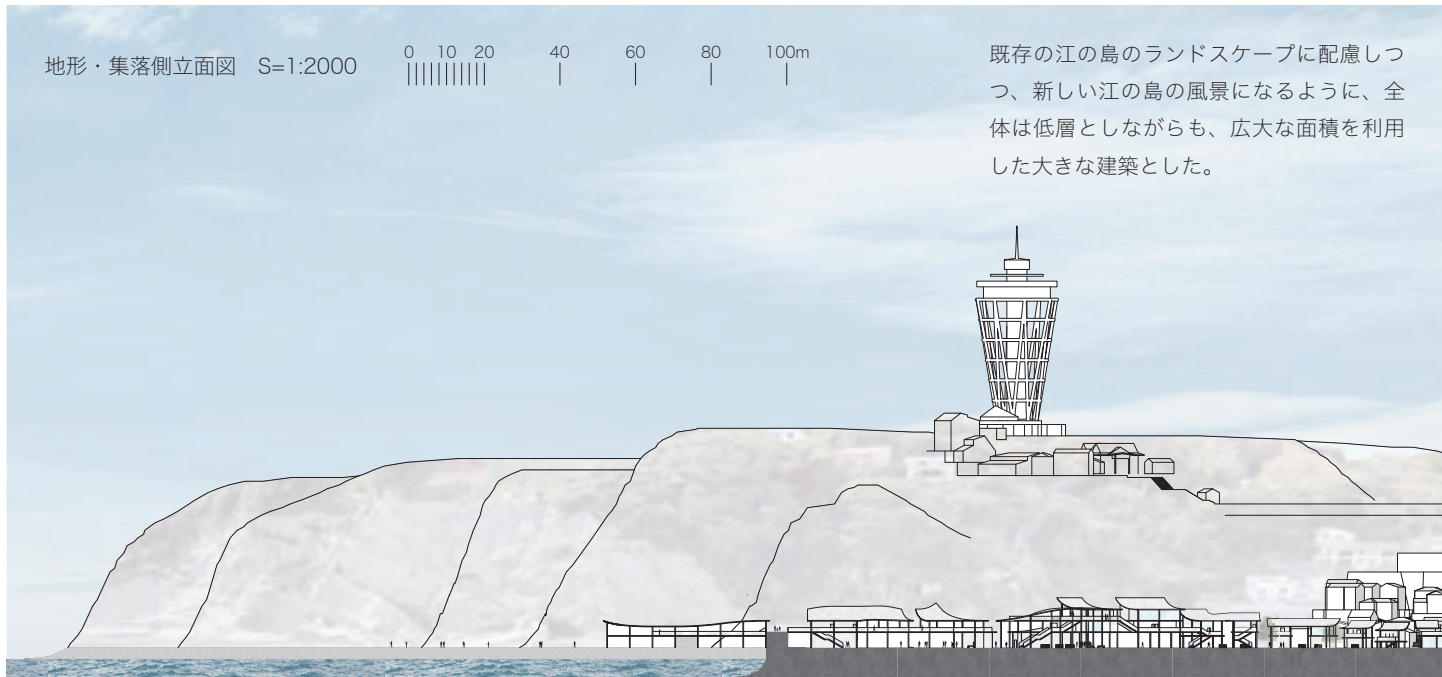
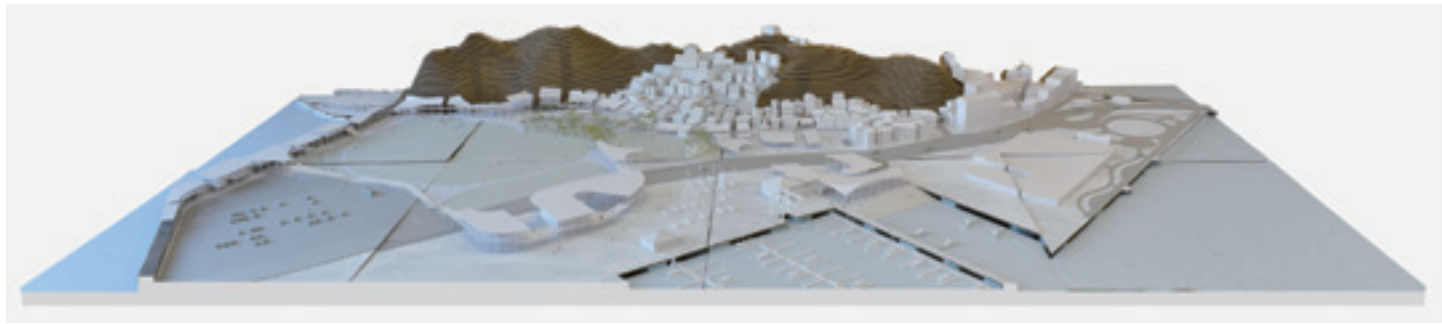
特徴的な環境

プログラム

- ・ 短期～長期滞在の場
 - ・ 漁港
 - ・ 漁の作業場
 - ・ 食事をする場
 - ・ 公民館
- ・ 銭湯
 - ・ ヨットハウス
 - ・ 公園
 - ・ 休憩所

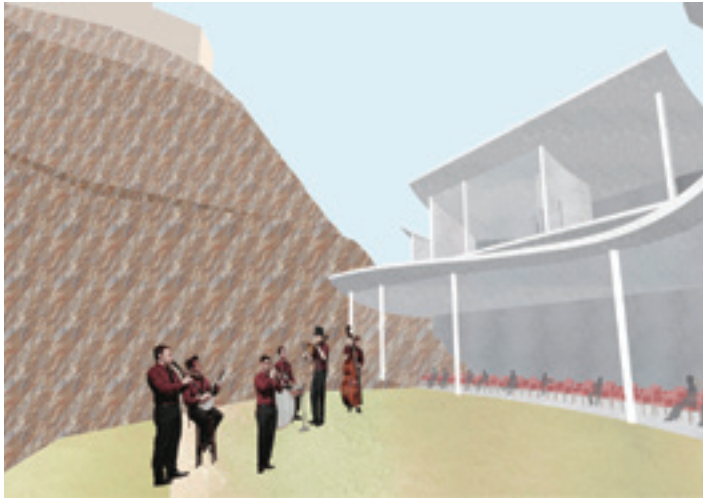
-  外部の人の動線
-  島民向けの動線
-  深みに入る動線
-  設計の影響範囲



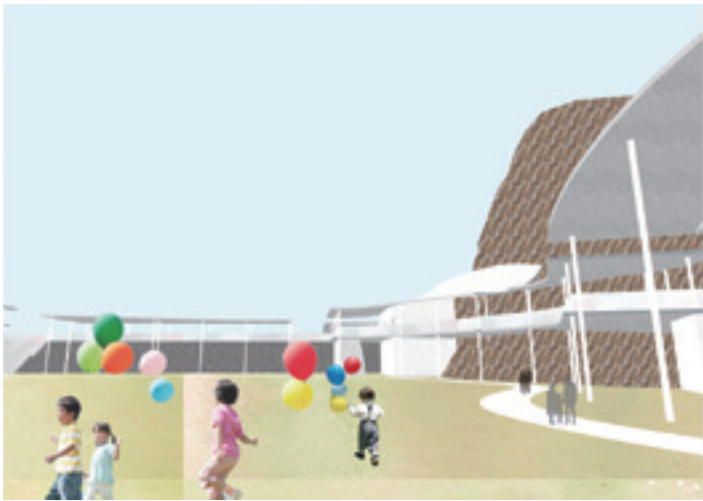




堤防の上に屋根をかけて、滞在場所や休憩所、レストランなどから海や岩場を一望できるような人々の居場所にする。



地形と建築によって囲われた屋外ホールによって、島の奇異な地形が認識される。



屋根が地形に呼応して形を変化させる。建築の手前側の広場からは、多様な要素を包含する建築群が連続的に眺められる。



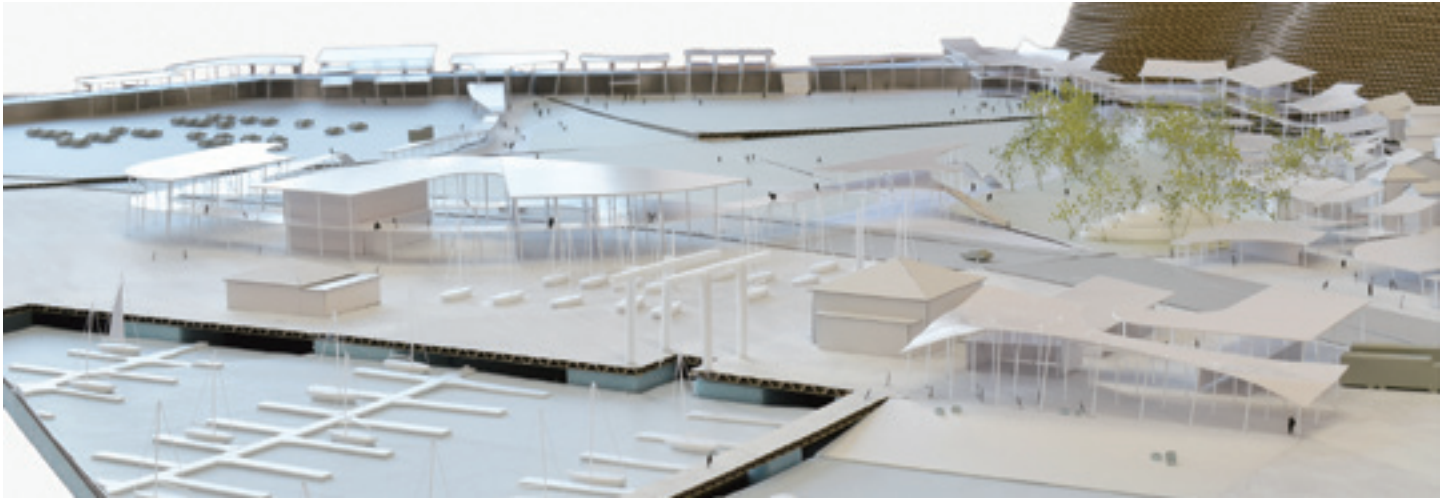
既存集落と敷地の境界に計画した建築群では、軒下空間やテラスが島民と滞在者の互いの存在を感じさせ、交流を促す環境を作り出している。



2階デッキから漁作業と漁港が眺められることで、島の生身の生活と訪れた人の生身の認識が両立する。



マリンスポーツ関係者と外から訪れた関わりのない人が、断面的に緩やかにつながる。



Special Thanks !

- ふじたく、たいち、こたろう：卒論で忙しい中、手伝ってくれてありがとう！短時間だったけど超強力ヘルプで助かった！
- たける、たろう、たいせい：卒制の決定打となった飲み会（たいせいとたける）、院試の決定打となったDIY（たけるとたろう）、本当に恩人！
- やまかいさん：深夜までの手伝い、本当に助かりました！どんなに絶望的な状況でも、やまかいさんに元気付けられ、アドバイスもいただいて、なんとかここまで乗り切れました。横国に入れたのも、藝大に進めるのもやまかいさんのおかげです。本当にありがとうございました！
- 馬場家一同：模型のほとんどの作業をやってくれて、本当に助かりました。みんなの助けがなかったらきっと今頃留年していました。超長時間、大学にまで来て文句も言わずに手伝ってくれた弟、仕事帰りで疲れているというのに、ここぞという時に何度も手伝ってくれた母親、深夜4時まで手伝った挙句、車で模型を運んでくれた父親、家族の強さを感じた1年でした。本当にありがとう。
- 京、永長：4年後期はほとんどこのメンバーで卒制を進めていましたね。朝活、夜活等々、悲鳴を上げながらやっていたのが懐かしいです。このきつい時期に共に過ごせる仲間がいたのは本当に心強かったです。これからもよろしく！
- 同期一同：この同期のメンバーで本当に良かったです。最高の4年間でした。落ち着いたらまた集まりましょう！

Comments from Classmates

それぞれの場所に対して、丁寧に江ノ島の多様性を顕在化する建築をつくっていて、手つかずだった埋め立て地が気持ちの良い場所に転換されていると思う。建築を島東部全体に広げて、埋め立て地全体を多様さの集まりとしてまとまりをつくるというより、広場を中心にまとまりをつくらせている決め手は何なのかが気になる。

亀井美里

馬場ちゃんはいつも洗練された美しい成果物を完成させてくる印象があります。模型箱とか見えないところまで妥協はなし！ってかんじで卒制でもそれが変わらなかったのがすごい。江ノ島のいろんな環境要素にそれぞれ対応させた建築が連続しながら広場を囲っていて楽しそうな空間になっているし、それぞれの建築がちゃんと設計されているんだろうなぁと思いました。江ノ島はやっぱり自然の土地と人工の土地の接続が面白いので、それをどう解釈したのか、もう一度改めて話してみたいです。

寺西遥夏

これぞ江ノ島という荒々しい地形の上ではなく、まっ平らに埋め立てられた東側をあえて敷地に選んだのはとても面白かった。模型にやや均質な印象を受けて、妙に広大な一施設に見えてしまったけど、漁港・ヨットハーバー・住宅地・岩壁・太平洋といった諸要素と関係づけられた部分の集合だったのかと思うと、それぞれがいろんな形態をとっても良かったかもしれない。あと配置図を見て、江ノ島岩屋から海沿いにこの敷地まで辿る道があったら、島全体で回遊動線が描けていいかなとか考えた。馬場は初めの頃こそ抜けない奴だという印象だったけど、だんだん狂気が顕になってきて面白かった。藝大行っても馬場全開であって欲しい。

高橋健

まず、建築に限らず何かに打ち込む姿勢と苦しいと言いながらもやり切ってくる精神力が単純にすごいと思う。良くも悪くも八木橋が大学生活で一番影響を受けた人だと思う。これまでの課題も卒業設計に関しても、本当にいろんな文献を漁り、足を運んでリサーチをしていたなど。それが下支えになって建築やプログラムができてるとそばで見えて感じてたし、場所を見る目はこの4年間でかなり養われて、観察者としての馬場は十分に力を発揮したと思う。一方で、馬場自身がどう思うのか、感じたのか、当事者としての見方感じ方、考え方を反映していくような作り方もやってみたら面白そう。いろんな人やものの世界に入って触れていく中で、それにあったデザインのスケールをこれから追求していったら欲しい。

八木橋京

半年間側で見ていて、馬場は卒制を課題のように捉えている部分を感じるところはあって、自分の提案を上手くまとめようとしている（これはポートフォリオの関係もあったと思う。）ように見える時もあった。自分の本当の興味というよりは面白い提案をするぞ！っていう部分も垣間見えた。違ったらごめん（笑）。ただ、これは自分は懐疑的に思う部分はありつつも、とても良い長所であると思う。学生ではなくなったら経過よりも最終的な成果物が大事になる部分が大きくなると思っていて、馬場は4年間を通してまとめることや最終的な提案に誰よりも愚直であり続けたと思う。ここに関してはブれることなく自分を貫いていて凄いなーと素直に思う。なので、進学先も凄い馬場にあつてると思うし、更に成長できると思う。京と同じで馬場は真面目すぎる部分はあると思うんだけど、ただ、提案から設計にうつる段階で少しだけアホになるのが人間らしくて好き（笑）

永長穂高